



DX推進計画書

データ駆動型経営への転換による持続的成長戦略

現在の課題と目指すべき姿

背景と目的

製造業を取り巻く環境は、
原材料費の高騰や人手不足、顧客ニーズの多様化
など急激に変化しています。
当社が持続的に成長するためには、
経験と勘に頼る従来のアナログな経営から
脱却し、「データ駆動型経営(データドリブン)」
への転換が不可欠です。

目指すべき姿

デジタル技術を全社共通の基盤とし、営業から製造、
出荷に至るまでのバリューチェーンを一本のデータで
繋ぐ「デジタル・インテグレーション」を実現します。
これにより、顧客には「圧倒的な短納期と透明性」を、
社内には「ムダの徹底排除と高付加価値業務への集中」
という価値を提供し、
業界におけるリーディングカンパニーを目指します。

DX戦略の4つのフェーズ

本戦略は、単なるツールの導入ではなく、以下のフェーズでビジネスモデルを革新します。

設計・開発の効率化

製品コード採番の自動化および図面の電子化を完了させ、設計リードタイムの短縮と情報の再利用性を高めます。

製造プロセスの高度化

スマートファクトリー化により生産進捗をリアルタイムで監視。蓄積されたデータの分析を通じて、生産性の最大化を図ります。

サプライチェーンの最適化

WEB-EDI導入と定期発注のシステム化、および設計変更部品のデジタル管理により、発注ミスと在庫ロスの低減を実現します。

RPAを使用した業務の自動化

RPAを使用して日報作成の自動化を行うなど工数削減を実現します。

DX推進体制と人材育成

組織体制

常務取締役をトップとした「DXプロジェクト」を設置。システム部門のみならず、営業、製造、設計、資材の各現場から選出された「DXプロジェクトリーダー」を任命し、現場の声を直接システム改修に反映させるボトムアップ型の推進体制をとります。

人材育成の方策

DXの成否は「人」にあると考え、特に次代を担う若手社員への教育を強化します。

ITリテラシー研修

勉強会の開催、データ分析、AI活用、ノーコードツールの基礎を習得。

実践型プロジェクト

研修で学んだ知識を活かし、自部署の課題を解決するシステム構築プロジェクトを若手主導で実施。これにより、単なる「使用者」ではなく「DXの推進者」を育成します。

ITシステム・デジタル技術活用の環境整備

クラウドファーストの原則

発注システムには拡張性の高いクラウド基盤を採用し、外部環境の変化に柔軟に対応できるインフラを整備します。

サイバーセキュリティの強化

顧客データおよび設計データの漏洩を防ぐため、IPAの「セキュリティ・アクション(二つ星)」の宣言に加え、SSOやアクセスログ監視などの技術的対策を講じます。

指標（KPI）の具体的設定

以下の指標を用い、進捗を測定・評価します。

重点項目	指標名	現在値	目標値(5年後)
開発効率	図面検索・抽出時間	30分/回	1分以内
生産性	設備総合効率(OEE)	65%	80%以上
調達	注文書の発行枚数	5000枚/月	100枚以下/月
RPA	人による日報入力時間	40分/日	0/日
人材	IT研修修了者数	0名	若手社員全員 (15名)

目指す未来

デジタル技術を全社共通の基盤とし、営業から製造、出荷に至るまでのバリューチェーンを一本のデータで繋ぐ「デジタル・インテグレーション」を実現します。これにより、顧客には「圧倒的な短納期と透明性」を、社内には「ムダの徹底排除と高付加価値業務への集中」という価値を提供し、業界におけるリーディングカンパニーを目指します。